

—子育て・教育シンポジウム（in長岡）—

どう受け止める子どもの心

編集 部

去る9月16日長岡市において開催された、標記のテーマのシンポジウムに参加しました。以下、その大要を報告します。地域のこのような「教育懇談会」をいつそう重視していきたいものです。

子どもたちは心の叫びをあげながら育っている

最初に、司会から次の問題提起がされました。

「子どもたちは、乳幼児期から心の叫びをあげながら、育っています。それぞれの発達段階であげる心の叫びを、私たち大人はしっかりと受けとめているでしょうか。競争が強まり、自己責任が問われる社会の中で、『自分が自分であっていい』という自己肯定感が持たずに苦しんでいます。」

思春期・青年期の子どもたちは、いじめ、不登校、摂食障害、ひきこもりや、リストカット、自殺、身近な

人に刃を向けるかたちで、心の叫びをあげているのではないのでしょうか。私たち大人は、子どもたちの不安な気持ちにより添いながら、『丸ごとのあなたが大好き』と伝えていくのでしょうか。このシンポジウムで、子育てや教育の悩みや願い、子どもたちをめぐる状況などを語り合い、子どもたちの心のさけびをどう受け止めたらいいいのか考え合いましょう。」

パネリストは、元保育士・小学校教員・地域の相談員等で、乳幼児期、学童期、思春期・青年期に分かれた分散会も行われました。

参加者は、25名とやや少な目ですが、孫育て世代も含め、深刻な課題に熱心な報告と討議を続けました。

食と睡眠を大切に — パネルディスカッションでは

・ベテランの保育士さんは、「社会の情勢が大きく

変わり、親の働き方が大きく変化した」「食事と生活リズムを大切に…」と、食と睡眠の大切さを報告しました。

就寝時間が、親に合わせて10時から11時なので、子どもは朝から睡眠不足。寝起きも悪い。

親も、朝食を摂らない、摂らせられない実態。朝から、ビデオやゲーム・テレビ漬けの生活。食事の内容もパン・ジュース、おにぎり・お茶などの同じパターンの繰り返しの子どもが増え、内容的にも悪化している。こんな園児は、登園後も大あくび、園で30分以上も大いびきで寝たら、スツキリだそうです。

子を園に預けるのが精一杯で仕事に忙しい親、「お母さんのお腹から生まれたのに、僕が可愛くないのにな」と子どもに呟かせる親たちに、「大好きだよ」と抱きしめる時間を作ってもらいたいと願うのです。

・お父さんでもある小学校教員からは、「我が子をゲームにどう向かわせるか」の悩みや、高学年になる「僕への関心は、成績だけですか」「いじめている子にも気づいて…」「他の子と比べないで、僕をきちんと見て…」と訴える子どもたちの実態が語られました。

・不登校に関わるお母さんからは、「学校は高速道

路みたいな所で他人のペースに合わせるのととても疲れる」、「ちよつと休ませてくれ」という不登校児らの心の叫び。レールに乗って走っているように見える「よい子」でも、ストレスから摂食障害やリストカットを引き起こしてしまうなどの実態が報告されました。

親と子どもの生活を直視しよう ― 分散会では

・普段から、点数や成績で比べられ、塾や習い事に追われる子どもたち。・親も子ども生活を直視して「振り返る」ことの大切さ。・乳幼児には、母親がハッピーなら子どもにも優しくできる。親子ともに、食事、睡眠、遊び・運動などのバランスを考えた生活のリズムの確立が求められます。・課題を持った子ほど「私のことを見てよ。私を大事にしてよ」と発信している。等々…

人間は、頼られ信頼し合う中で「自己肯定感」が育ち、「自立」できるのではないのでしょうか。家族や近隣のコミュニケーションは大切です。

「人間として成長し合うことの大切さ」に共感した1日でした。